

## 2006年度第3回 Lラーニング学習支援システム研究分科会記録

---

日時：2006年12月8日(金)13:00～18:00

場所：麻布大学(相模原)百十周年記念会館 2F会議室

出席者：阿部(東京歯科大学)田代(日本女子大学)池田、高野、豊田(オブザーバ)  
守重(オブザーバ記録)

配布物：第2回 Lラーニング学習支援システム分科会記録

第3回 Lラーニング学習支援システム研究分科会記録タイムテーブル

分科会助成金の改訂について

応用編問題(守重作成分)

---

### 1. 事務連絡

阿部氏より代表会議(11月10日)の報告。

助成金について。

・サーバレンタルが可能かどうか協会事務局に確認することとした

### 2. ソフトの検討

池田氏よりMoodle(eラーニング用のオープンソースソフト)の紹介。

導入を検討するため、阿部氏と池田氏がMoodleの機能の確認を行うこととした。

・出題設定の確認(「選択肢数の上限」「正解が複数ある解の設定が可能か」「画像を使用できるか」等)

・学習方式の確認(「習熟度の確認方法」等)

・既存データの移行が可能か

・その他

### 3. 問題の検討

「基礎編」「応用編」の各問題の作成方針について、出題形式等を含めて再検討した。

基礎編

Step1 略語隠語タイトル

出題形式：解答を求める形式にせず、解答を確認する形式とする。

出題資料：二次資料のみとする(雑誌タイトルの略語は除く)。

略語隠語は、地域差や館差により複数解答の可能性はある。

Step2 :自館 OPAC

出題形式：解答を求める形式にせず、チェック項目形式とする。

解答例を載せることを今後検討する。

Step3 :参考図書の使用方

出題形式等は、今後の検討課題とする。

Step4 :引用文献の読み方

出題形式：Moodle の機能の確認後に検討する。(画像を使用できるか?等)

出題資料：案としては、二次資料 (PubMed 等) の検索結果と参考文献一覧の例。

#### Step5 粗調べ

出題形式等は、今後の検討課題とする。

#### 応用編

各自試作した応用編の問題を検討し、今後の作成方針について再検討した。

問題は「語源を調べるには」ではなく「 の語源を調べるには」という具体的な問いとする。

そのため「 」の内容によっては、同じレファレンスツールを使用しても解答が異なる場合もありえる。

問題の選択肢のレファレンスツールは、紙媒体資料のみとする。但し、紙媒体以外の資料であっても信頼性が高いもの(責任表示が明確なもの)は、解説で触れても可とする。

解説の内容は、レファレンスツールの解題ではなく、問題解決のための内容に特化したものとする。

応用編の出題形式は、ソフトの機能に依存するため、阿部氏と池田氏のMoodle の確認作業後に検討することとした。それまでの間は、暫定的に以下の方針で問題を作成する。

問題の選択肢は 4、5 個。

解説はメモ程度。

問題や解答の文章の長さ等は、2004/2005 年度の指針 (第 1 回 (2004.5) 記録 議題 5. 具体的な問題作成方法、推敲方法」参照)を基本的に踏襲する。

#### 4. 次回例会までの作業課題

年内 (2006 年 12 月末日)までの期間

レファレンスブック 50 冊のリストを Excel で作成し、阿部氏に送付する。

リストの形式 列番号 A : レファレンスブックのタイトル

列番号 B : ISBN (または ISSN)

列番号 C : 分野を NDC (0-9) で記述する

次回例会 (2007 年 2 月予定)までの期間

基礎編の事例追加 : 全員 (ルマ無し)

応用編の問題作成 : 全員 (6 ~ 10 問作成)

Moodle の機能の確認 : 阿部氏、池田氏

他の e ラーニングの事例の収集 : 全員 (ルマ無し)

#### 5. 図書館見学

麻布大学図書館の見学を行なった。

#### 6. その他

次回例会は、2 月 15 日 (木) と 22 日 (木) を候補として調整する。会場は一橋大学を予定。

以上